With コロナ巣ごもり読書 XII

『大鏡』道真VS時平 5

道真VS時平から地獄にまで話が堕ちてしまいましたが、『日蔵夢記』の作者日蔵は一説では醍醐に辛酉改元を上申した三善清行の子とされます。

847年生の清行に対し、道真は2歳下の845年生で同年輩ですが、清行が53歳で文章博士となった900年、道真は宇多の抜擢で右大臣。この破格の出世に心穏やかならざるは清行も例外ではなかったでしょう。折しもの道真失脚。醍醐周辺の勢力図には相当な変化があったと思われます。清行が失脚に加担していたのではという説もありますが、ともかく、辛酉改元勘申後も清行は意見封事12箇条を呈上するなど勤め上げ、917年、納言に次ぐ重職の参議となり、翌年72歳で死去。ときに日蔵14歳。道真事件については清行から何がしか聞いていたかもしれませんが、道真怨霊の対象を時平ではなく醍醐とした夢記の執筆動機は一体何だったのでしょうか。

夢記に登場するのは事件に関わる道真、醍醐、宇多ら冥界にいる人達で、日蔵は醍醐から、卒塔婆一万、得度者三千賜わって救済して欲しいだの、宇多からは池や花樹苑、馬場などを備えた豪華な天祠を建立して道真霊を慰撫せよだのと、摂政大臣忠平への伝言を託されます。

忠平は941年には摂政から関白になっているので夢記成立も941年以前となりますが、実は夢記にはもう一人、生きている人物が登場しています。

金峯山修行中に絶命した日蔵（37歳）は、冥界で蔵王菩薩から「護法菩薩仁敻（にんけい）を師として浄戒を受け精進せよ」と告げられます。この仁敻（875-949）は興福寺の僧で出自は藤原氏。忠平の子で後の関白実頼（900-970）と親交があったとされる人物です。注

が、しかし、冥界の菩薩が現役の僧を指名するというのは甚だ唐突に思われます。

興福寺といえば藤原氏の氏寺で、平安中期から室町時代にかけて延暦寺と並び、神木や神輿を振り担いで朝廷、幕府に強訴を繰り返した寺ですが、蘇生した冥界帰りの日蔵が菩薩のお墨付きで仁敻に師事するとなれば、仁敻＝興福寺の宣伝効果たるや絶大なものがあるでしょう。

また、結果として忠平らによる道真天神社も実現している訳で、怨霊・冥界譚をかざして要求を主張する手口は神輿担ぎとそっくり。強訴の初例は968年ですが、約30年前、その原型が見えそうです。

また、歴代天皇まで利益誘導のネタにされているとならば、単に堕地獄以上に天皇の権威に関わる話で、隠蔽されて当然。夢記が異説とされたのも道理に思えます。

それにしても一介の修験僧がこんな大それた事を思いつくものでしょうか。

書いたのは本当に日蔵？それとも誰かのヤラセ？怪しい限りです。

注『日蔵夢記』菊池真みしま古典を読む会　高月フミコ

小出正吾回想録（16）

「童話から童話へ」

3 英和予備校から明治学院へ

明治十八年、満十二歳で上京し、服部校長宅に預けられた道也少年は直ちに英和予備校に入学した。

同校の入学資格は小学校卒業の者で、課程は二か年、第一学年の学科は、文学（英語・訳読・会話・習字）、数学（算術）、聖書（福音書）、和漢学（文法・物語・十八史略・劉向新序）となっている。

教師陣は服部綾雄氏（校長）、石本三十郎氏、杉森此馬氏、ジョン・バラ氏（ゼームス・バラ令弟）、ワイコフ氏、マコウレイ氏、ハリス氏、マコウレイ夫人等であった。

ところで、この学校の後身、明治学院に現存する明治十九年の英和予備校在学証書によると、同年の在学生は一〇三名で、その中に「小出道也（十四歳）」という名前がある。（「明治学院五十年史」一五四頁による）

父と同じ十四歳（数え歳）の少年が六人いるが、その下は十三歳が三人、最年少の十二歳が二人だけで、あとは二十八歳まで全部が年長者であった。

同十九年の石本三十郎先生のレコード・ブックには、1st, Year 十八名中に Koide という名が記されている。

この年十九年、築地大学の後身だった東京一致神学校、東京一致英和学校、及び神田の英和予備校が合併して新たに明治学院を設立することに決定し、翌二十年九月、東京市外白金村の玉縄台に新築落成したサンダム館に前記三校が移転して、明治学院の開校となった。つづいて寄宿舎ヘボン館が落成し道也少年はそこに入舎、二十五年の卒業まで、五年間をこの白金の丘で送ることになった。

このヘボン館は、名称の通りヘボン博士の記念館だが、当時東京一といわれた木造洋館の大建築で、一階から三階までが全部寄宿舎、コンクリート造りの地下室は雨天体操場兼柔道・剣道の道場だった。各舎生室が寝室と書斎に分かれていた様子などは、当時の学生だった島崎藤村先生の作『桜の実の熟する時』の中に細かく描写されている。

舎生室の数は合計二十八室だったが、寝台は計百三十台だったというから一室四人ぐらいの相部屋だった勘定になる。

この大きなヘボン館の建築費はヘボン博士の寄付による一万円が当てられたのであって、それは「ヘボンの字引」として有名な同博士著『和英語林集成』の著作権を十九年に丸善商社に譲渡して得たものであった。

ヘボン館には中央玄関の屋上に五階の塔が聳えていて、そこからの眺望は東に品川湾から房総の山々までを望み、西には武蔵野の彼方に秩父の連山、さらに富士まで見渡す雄大なものであると、当時の規則書には誇らしげに書かれているが、必ずしも学生募集の宣伝文句ではなかったと想われる。何しろ、まだ白金村の当時だったから、四辺は実に鄙びた田園風景で、高輪から品川八つ山下辺まで出ないと町らしい空気には触れられなかったということだ。その丘の上に、突如として聳え立った西洋館は、たしかに異彩を放ったことにちがいない。

このヘボン館の隣りには、既に前年二十年九月に落成した最初の校舎サンダム館が建っていた。四百名を容れ得る講堂を持ったこの校舎は改革派教会に関係の深いサンダム夫人という富豪から亡き夫君の記念として寄せられた資金によって建てられたものであった。

私の父の明治学院時代は主としてこれらの建物の中で送られたのだが、その授業はどのようなものであったかというと、規則書で見るかぎり普通学部では一般中学規定での学科と大した違いはない。ただし学院の設置目的に明記されているように「英語ヲ以テ博ク普通ノ学科ヲ授ケ」というのが全く異色といえるであろう。

創立当初の普通学部の教師陣は、ヘボン博士を筆頭に、ジョン・バラ、ワイコフ、マコウレイ、ハリス、マクネヤ、石本三十郎、服部綾雄、杉森此馬、A・B・バラ女史等の先生たちだった。明治二十二年から二十四年まで学院初代総理だったヘボン博士（医学・法学博士）は自ら「生理及び健全」という学科を担当したということだ。

（続く）

沼津駅北口にあった国鉄沼津機関区（その5）

1945年12月5日、沼津機関区内1200名の職員の内の167名が集まって沼津機関区従業員組合結成大会が行われた。圧倒的多数の職員は、大日本鉄道機関車乗務員会への弾圧や、共産党員の検挙弾圧を身近で見ていて、この周りの多くの人達が特高警察から締め上げられる恐ろしさを肌で感じていたから簡単には労働組合に加入しなかった。

しかし、この沼津の結成大会に鉄道局長官佐藤栄作から祝電が寄せられた。これを聞いて組合に警戒心を持っていた人々も一斉に加入し始めた。この、沼津での結成大会に続き、新橋鉄道管理部機関車労働組合の結成大会を12月24日行うという呼びかけがされた。そして、東京、品川、久里浜、高島、国府津、伊東、沼津の7機関区の代表500人が小田原に集まり「新管機関区労働組合」が結成された。

こんな状況を聞きつけて再建されたばかりの日本共産党の徳田球一が焼酎を抱えて沼津機関区に乗り込んできた。組合長である山口寅吉は大歓迎し機関区講習室を提供し組合員を集め演説会を開催し、その場で岩瀬俊彦、楠半兵衛をはじめとした多くの若者たちが日本共産党に入党したが、山口寅吉委員長、清水能兄書記長など中堅幹部は入党しなかった。この後、この若者たちと戦前からの党員成川伊作などと沼津市委員長になった作家田中英光の奮闘によって日本共産党国鉄沼津機関区細胞はすぐに16名にまで増加した。

12月29日には東京の国電の基地電車区の省電中央労働組合が結成された。東京周辺では、次々と労働組合が結成されつづけたが、これらの統合、単一組合化の模索がそれぞれの、地域や職種で追及されていた。それと合わせこれらの組合内での主導権争いも熾烈化してきた。省電中央労組を中心とした共産党系、大宮工場を中心とした後の反共連盟系、それに、山口寅吉を中心とした沼津、国府津グループと三つ巴で複雑な動きを見せていた。こんな状況の中、山口寅吉委員長の新橋管理部機関車労働組合は、越年資金、家族手当などの要求書を当局に提出し、要求が通らなければ1946年1月10日にストライキを行うと通告した。

これを聞いて、米第八軍第三鉄道輸送部隊ベッグ大将の代理人と称する橋本なる男が再三、沼津に現れ「アメリカ軍はストに大きな関心を持っており、スト中止を望んでいる。組合があまり強いことを言っていると、アメリカ軍としてはレールその他いろいろな機器も傷んでいるので再建もできないのならアメリカから資材を取り寄せ整備する（アメリカが国鉄を占有する）」などと言ってストを威圧し、ベック将軍との会談を進めた。

〈山梨・国労OB〉

来年の大河ドラマは北条義時

北条に討たれた和田義盛怨念の神社

来年のNHK大河ドラマの主人公「北条義時」！、小栗旬が演じ、脚本はあの三谷幸喜さんが書くという。

源頼朝・北条義時といえば我が町〝三島〟にも非常に縁が深い。

三嶋大社の「頼朝公旗挙げ行列」は市民に馴染み深いものとなっている。その源頼朝が挙兵し、やがて鎌倉幕府を起こし、彼の死後、鎌倉幕府の実権を握ったのが頼朝の妻「政子」の弟である北条義時だった。頼朝の死後、有力御家人13人での合議制の幕府政治体制からライバルたちを次々に排除し、ついに鎌倉幕府の実権を握ったのが北条義時だ。その北条義時に滅ぼされた和田一族の落延びた先が、私の住んでいる三島市旭ヶ丘のすぐ近くにある。

三島市旭ヶ丘はいわゆる新興住宅地、市立山田小・山田中はすぐ近くである。その東側下には山田という集落があり、その集落に鎮座する「滝川神社」がある。パワースポットとしてかなり有名な神社らしい。三嶋大社の祭典の前日に神職がこの神社で目前の滝に打たれて禊（みそぎ）をする習わしがあるようだ。祓戸（はらえど）の神である「瀬織津姫神」をお祀りする神社ということで、その昔は民間信仰の場として瀧不動ともいわれたという。この滝川神社がある山田集落には何故か「杉本」という姓が非常に多い。

その「滝川神社」に正月に行ってみた。神社入り口に掲示されていた「杉本ルーツの由来」という項目があり、それによると「山田」の集落は、「北条義時」に討ち滅ぼされた鎌倉幕府侍所の別当「和田義盛」一族の落武者部落だと言い伝えられている。

たぶん脚本家の三谷幸喜氏は義時を立派な人間として描くのであろうが、本当のところはどうだったのか？

その北条義時に滅ぼされた一族の落ち武者部落ということは、大河ドラマの主人公「北条義時」が放映される来年は、あまり山田集落のことは表に出さないほうがいいと通常は考える。三島市山田の滝川神社の掲示板には「杉本ルーツ」としてこう書かれていた。『山田町内（30件「軒」中半分以上が杉本）で有り鎌倉幕府の和田義盛、鎌倉幕府の内輪もめ（和田合戦）に負けて1213年死、DNAを残すために3ヶ所に分かれたと言い伝え（山田、裾野市下和田、久米田）和田義盛の父（杉本義宗）の杉本を3ヶ所で名のったと思われる』頼朝亡き後10数年のうちに、13人の有力御家人の中で梶原景時・比企能員・和田義盛が滅ぼされ、3名の重臣も病死し、筆頭の北条時政も義時によって伊豆に追われてしまった。

かくして義時は鎌倉幕府の実権を握り、のちに承久の乱で後鳥羽上皇を破り、武士の世を盤石にした男といわれる。今、米中の覇権争いが盛んに取り沙汰されているが、大河ドラマ主人公の北条義時も当時の日本国内での覇権を握るための権力闘争に打ち勝った勝者ということなのだと思う。

その勝者側の著した歴史書が「吾妻鏡」であり、勝者に都合の良い歴史が書いてあるということだ。和田義盛は北条義時にうち滅ぼされた側であるので、一族郎党は和田姓を名乗れず杉本姓を名乗って隠れ住んだのだろう。

〈前島〉

郷土の文学碑 ⑳

太宰の文学にみる三島の情景

『老ハイデルベルヒ』より

八年前の事でありました。当時、私は極めて懶惰な帝国大学生でありました。一夏を、東海道三島の宿で過したことがあります。

・・・私は、三島に行って小説を書こうと思っていたのでした。三島には高部佐吉という、私より二つ年下の青年が酒屋を開いていたのです。佐吉さんの兄さんは沼津で大きい造り酒屋を営み、佐吉さんは其の家の末っ子で、私とふとした事から知り合いになり、私も同様末弟であるし、また同様に早くから父に死なれている身の上なので、佐吉さんとは、何かと話が合うのでした。佐吉さんの兄さんとは私も逢ったことがあり、なかなか太っ腹の佳い方だし、佐吉さんは家じゅうの愛を独占して居るくせに、それでも僕の寝る部屋があるかい。」・・・そのまま一夏を、私は三島の佐吉さんの家で暮らしました。

（続く）

太宰 治 ①

志下で静養中の右から太宰と武郎と初代

沼津アルプス産はちみつ
販売始めました
100g、200g,300g,600g、1Kgのびん詰めを用意しています
【取扱店】
市民ひろば
ジンタの天然マーケット
（毎日曜日 11時~13時）
Book café den（箱根入口）
和風カフェねこや（沼津みなと）
カフェ ナマケモノ（大仁）
ともり歯科（三島市中）
連絡先:080-3061-1561

おとうすび にぎりたて 本格むすび
ひやり工房
清水町新宿 55
営業時間　6時～14時
定休日　第2水曜日
素材にこだわり、手握りにこだわり、握りたて本格むすび
★できたてをその場で食べられます
みそ汁とお茶は無料サービス
株式会社 岩崎米穀

労働相談受け付けます！
三島ふれあいユニオン
首切り解雇、残業代未払い
職場でのパワハラ・セクハラ
一人で悩まないで相談してください
三島ふれあいユニオンは
全力であなたをサポートします
電　話：090-4216-8417
Eメール：hrwsiys@yahoo.co.jp

訪問リハビリマッサージ
マッサージ治療院
シャローム
歩行が困難な方は医療保険を使って在宅でマッサージ施術を受けることができます。
お気軽にお問い合わせ、ご相談下さい。
沼津市大岡2306
代表　岡田進一
電話：055-922-6972
携帯：090-1285-0223